

| | |
|----------|--|
| 氏名（生年月日） | たかむら たかあき 高村敬明（昭和56年9月24日） |
| 本籍 | 福井県 |
| 学位の種類 | 博士（医学） |
| 学位記番号 | 甲第501号 |
| 学位授与の日付 | 平成29年9月29日 |
| 学位授与の要件 | 学位規則第4条第1項該当 |
| 学位論文題目 | Circulating malondialdehyde-modified low-density lipoprotein (MDA-LDL) as a novel predictor of clinical outcome after endovascular therapy in patients with peripheral artery disease (PAD) (MDA-LDL は、下肢動脈疾患に行われた下肢動脈血管内治療の予後予測因子と考えられる) |
| 論文審査委員 | 主査 小林 淳二 副査 石崎 昌夫 四方 裕夫 |

論文審査結果の要旨

申請者は下肢動脈血管内治療を受けた症例を対象とし、血管内治療前後比(直後値/前値)で対象症例を高値群、低値群の2群にわけ、前者は後者と比べ下肢動脈血管内治療後の予後が良いことを明らかにした。本研究の最も大きなポイントは酸化マーカーの1つの指標である MDA-LDL の下肢動脈血管内治療前後比(直後値/前値)がその治療後の予後予測因子となる可能性を示唆した点にあり、これまで類似した研究は前例がなく斬新と言える。

審査員の先生方から、血管内治療施行後 MDA-LDL が低下する理由を問われ、肝細胞内の kupffer 細胞などで処理されている可能性を示唆するも、その証明をしていないこと、高感度 CRP と MDA-LDL 前後比は、負の相関関係を示したものの高感度 CRP 自体の下肢動脈血管内治療後の変化は述べていない、などの指摘、また症例数の少なさ、観察した下肢部位が両群でばらつきがある点、などの指摘もあったが、今後の研究進展につなげていただきたい。

冠動脈疾患発症や治療後の再発リスクと異なり、下肢動脈血管治療についての予後推定因子の知見が少ない現状において、治療後の予後推測因子として MDA-LDL 前後比という新規マーカーを提示した点で本研究は意義深い。

以上により、本論文は博士(医学)の学位を授与するに値するものと認められる。

(主論文公表誌)

Atherosclerosis, Vol. 263, 192-197, 2017